allcinema

暗殺者の家（1934）

THE MAN WHO KNEW TOO MUCH

メディア 映画
ジャンル サスペンス
製作国 イギリス
色彩 B&W
時間 76分
初公開日 1935/12
公開情報 劇場公開

【解説】

後にハリウッドで’５６年に「知りすぎていた男」として自身でリメイクする作品の原型で、ヒッチコック英国時代を代表する快作だ。ローレンス（Ｌ・バンクス）は妻ジル（Ｅ・ベスト）と娘ベティを連れて出かけたサン・モリッツで殺人事件に遭遇する。殺された男の虫の息の一言を聞いたためベティは誘拐され、舞台をイギリスに転じての国際諜報団との対決が繰り広げられる。Ｐ・ローレの悪役ぶりが不気味に印象的。クライマックスはアルバート・ホールのコンサートでの暗殺場面。再映画化でもここの描写は冴え渡っていたが、本編最大の見どころだろう。その満場の観客は、実は製作費の不足から絵で描いてごまかしたという逸話が伝わっている。

【クレジット】

監督	アルフレッド・ヒッチコック	Alfred Hitchcock
脚本	エドウィン・グリーンウッド	Edwin Greenwood
	Ａ・Ｒ・ローリン	
	Ｄ・Ｂ・ウィンダム	
出演	レスリー・バンクス	Leslie Banks
	エドナ・ベスト	Edna Best
	ピーター・ローレ	Peter Lorre
	ノヴァ・ピルブーム	Nova Pilbeam

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.